

しっかり積み立て 安心で豊かな老後を!

# 農業者年金 加入推進事例集

vol. 18



全国農業委員会ネットワーク機構  
一般社団法人 全国農業会議所

# 農業者年金制度のポイントと魅力

## 1 農地の権利名義に関わりなく加入できる

- 加入資格は65歳未満、年間60日以上農業従事、国民年金第1号被保険者（ただし、60歳以上は、国民年金の任意加入被保険者）

## 2 少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型

- 将来の自分の年金の原資は自分で保険料を積み立てて準備するため、加入者・受給者数に左右されない安定した財政方式

## 3 保険料は経営・家計状況により自由に設定

- 月額2万円（35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円）～6万7千円の間で千円単位で選択、途中で増減も可能
- 加入脱退は自由。途中脱退した場合は、加入者が支払った保険料とその運用益を将来、年金として受給

## 4 終身年金で80歳までの保証付き

- 原則65歳から生涯、年金を受給。仮に80歳前に亡くなっても、80歳までに受け取れる予定であった農業者老齢年金の現在価値相当額が、「死亡一時金」として遺族に支給

## 5 支払保険料の全額社会保険料控除で節税

- 所得税・住民税が節税となるほか、農業者年金基金が運用して得られる運用益も非課税

## 6 保険料の国庫補助（政策支援）

- 認定農業者で青色申告者のほか、それらの者と家族経営協定を結んでいる配偶者や後継者など一定の要件を満たす者が補助対象
- 国庫補助額と運用益による年金（特例付加年金）の受給には「経営継承」が必要
- 政策支援加入者の保険料は月額2万円に固定

## 7 安全重視の効率的な運用（運用手数料なし）

- 長期にわたり資産構成割合を定め、これを維持するよう安全・効率的に運用
- 2002年度～2024年度までの23年間の年平均運用利回りは年率2.89%

## 8 個人の運用状況が「目に見える」

- 毎年6月末、自分の年金資産の積立・運用状況として付利通知がご本人に通知されます

## 9 運営経費は国庫負担

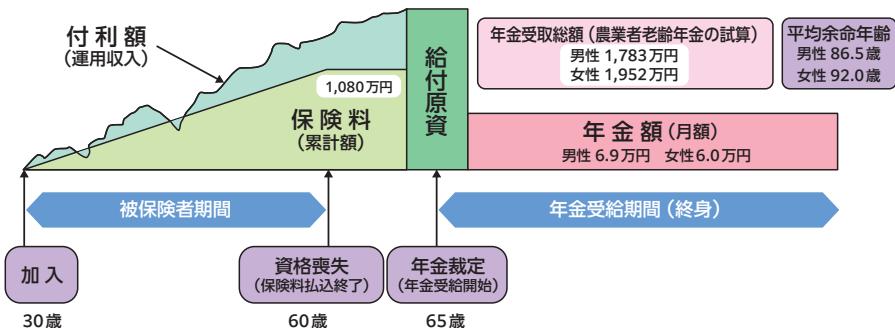
- 事務経費（人件費や施設費等）は、国が負担しているため、加入者の負担なし（納めた保険料の全額が年金原資になる）

# 農業者年金（積立方式・確定拠出型）の仕組みと年金額試算

## 仕組み

### 加入例

加入年齢 30歳 通常加入 運用利回り 2.5% の場合  
保険料（月額）3万円



## 年金額の試算（運用利回り2.5%・通常加入）

(単位：万円)

加入年齢	納付期間	月額 保険料	保険料 納付総額	運用 利回り	男 性		女 性	
					年金月額	年金受取 総額	年金月額	年金受取 総額
20歳	40年	2.0	960	2.5%	6.9	1,791	6.1	1,961
30歳	30年	3.0	1,080	2.5%	6.9	1,783	6.0	1,952
40歳	20年	5.0	1,200	2.5%	6.8	1,760	5.9	1,926
50歳	10年	6.7	804	2.5%	4.1	1,051	3.6	1,151

(注)

- この試算は、65歳までの運用利回りが2.5%、65歳以降の予定利率が1.35%となった場合の通常加入の試算です。予定利率1.35%は、農林水産省告示により定められている率です。
- 各金額は単位未満を四捨五入により表示しています。
- 制度発足（2002年度）から2024年度までの23年間の運用利回りの平均は年率2.89%です。
- 年金額は65歳裁定における年金額（年額）であり、年金受取総額は65歳での農業者年金加入者の平均余命を考慮し、男性86.5歳、女性92.0歳まで生存した場合の受取総額です。

(独立行政法人農業者年金基金資料より)

# は　じ　め　に

国民の平均寿命は、2024年には男性が81.09歳、女性は87.13歳（厚労省「簡易生命表」）になっています。また、65歳になった人の平均余命は男性19.47年、女性24.38年で、男女共に90歳前後まで長生きする社会となっています。世界でもトップクラスの長寿国です。厚労省の2024年9月の発表によると、100歳以上の人のが9万9,763人（うち女性が88.0%）になりました。いまや「人生100年時代」が現実のものになりつつあります。

長生きの備えは終身保障の年金に勝るものはありません。国民年金に上乗せする農業者年金は、農業者の老後生活の安定には欠かすことができない制度です。将来の自分の年金の原資を自分で積み立てる「積立方式」（確定拠出型）の新たな制度として、2002年にスタートして23年が経過しました。

この間、農業委員会関係組織およびJA系統組織、農業者年金協議会、独立行政法人農業者年金基金が連携して加入推進に取り組み、加入者累計は2021年7月末に13万人を突破しました。

本書は、農業者年金の加入の取り組みに大きな成果をあげた農業委員会およびJAの取り組み事例を紹介しています。また現場で汗を流し成果をあげた加入推進部長などリーダーの方々の取り組みのほか、加入者、受給者の安心と喜びの声も収録しました。農業者への制度の周知や加入者を増やすためのノウハウ、工夫、現場の知恵など、学ぶべき点が多くあります。

掲載事例等は情報誌「のうねん」（2025年1月号～11月号）に掲載されたものです。一部加筆修正したうえで1冊にまとめました。

本書が、農業者年金の加入推進活動に携わる農業委員会関係者、加入推進部長、JA関係者、農業者年金協議会関係者に広く活用され、活動成果につながれば幸いです。

最後に、現場での取り組み状況についてお聞かせいただいた関係者、加入者、受給者の方々にお礼を申し上げます。

2025年11月

全国農業委員会ネットワーク機構  
一般社団法人 全国農業会議所

# 目 次

## I 加入推進の取組事例

1	北海道 富良野市農業者年金協議会	4
	農業委員会・JA・農年協一体で加入推進	
2	茨城県 八千代町農業委員会	8
	委員同士がグループLINEで 加入推進状況を共有	
3	千葉県 旭市農業委員会	12
	加入推進名簿に ひと手間加えた取り組みで成果	
4	埼玉県 嶺山町農業委員会	16
	新規就農者にLINEを使って 農業者年金PR	
5	長野県 中野市農業委員会	20
	意欲のある農業者へ積極的にPR ブドウ好調で高所得・加入者増に	
6	鹿児島県 長島町農業委員会	24
	加入推進部長と事務局の 連携が大きな成果に	

## II 私の加入推進

1	埼玉県農業大学校 非常勤講師 社会保険労務士 諏訪 学さん	28
	農業大学校で将来の農業経営者に 農業者年金の魅力を伝える	
2	株式会社GSTELLA ENTERPRISE 代表取締役 堀口 浩さん	30
	保険の外交員が自ら加入するほどの有利な制度 自信満々で加入推進活動を！	
3	全国農業委員会女性協議会会长 広島県庄原市農業委員会会长 道下 和子さん	32
	安定した老後生活のために 夫婦で国民年金と農業者年金に加入を	

4 愛媛県 伊方町農業委員・加入推進部長 阿部 弘喜さん	34
農業者年金を受給したからこそ 将来の備えの重要性を伝えたい	
5 徳島県 上板町農業委員・加入推進部長 木下 美智子さん	36
農業者にていねいな説明で加入推進 独自の資料でメリットを伝える	

### III 加入者の声

1 三重県御浜町 古川 昭義さん・綾理さん	38
農業委員の母の勧めで加入 さまざまなメリットで老後に備えて	
2 奈良県五條市 木谷 有希さん	39
保険料補助や節税が加入の決め手 家族経営協定締結で国庫補助を受ける	

### IV 受給者の声

1 北海道標津町 田中 陽一さん・佐代さん	40
夫婦で受給する老齢年金 老後の備えに積み立てる	
2 茨城県常総市 高橋 敏明さん	41
受給して農業者年金のありがたさを実感 終身受給ができ、老後の支えに	

### 参考資料

1 2024年度農業者年金事業表彰・受賞受託機関	42
2 年金資産(被保険者ポートフォリオ)の運用利回りの推移	46
3 平均寿命の年次推移・主な年齢の平均余命	47
4 世界の平均寿命ランキング(男女別)	48

# I

# 加入推進の取組事例 1

## 北海道 富良野市農業者年金協議会

2024年度新規加入者 22人

【杉村鉄也会長／農業委員23人】

## 農業委員会・JA・農年協一体で 加入推進



### 活動事例のポイント

- ① 農年協を先頭に積極的な推進活動
- ② 政策支援と節税効果が加入の決め手
- ③ 保険料上限など通常加入中心に勧奨

新規加入者数の推移 (単位:人)

	全体	男性	女性
2019年度	17	8	9
20年度	9	3	6
21年度	15	5	10
22年度	12	8	4
23年度	8	6	2
24年度	22	14	8

富良野市はスキー、ワイン、ドラマ「北の国から」の舞台として全国に知られています。北海道のほぼ中央に位置していることから、毎年7月には団腹で踊るへそ踊りで有名な「北海へそ祭り」が行われています。東には十勝岳連峰、西には芦別岳、南には東大演習林が広がり、市の中央を空知川が南北に流れしており、主な農産物は畑作物、野菜、水稻などで、タマネギやメロンは市を代表する農産物となっています。

### 農業者年金協議会が主体の加入推進

富良野市農業委員会では2024年度の新規加入者が22人、うち女性は8人、39歳以下では20人という成果を上げ、19年度から24年度までの6年間で新規加入者の総数は83人。そのうち女性の割合は47%、39歳以下の割合は75%となっています。新規加入者のほぼ2人に1人が女性、4人に3人が若い農業者となっています。



農年協4地区代表（左から宮川隆さん、河井伸幸さん、今村丈哲さん、清水直樹さん）

富良野市での農業者年金加入推進を支えてきたのは、富良野市農業者年金協議会（以下、農年協）が主体となった加入推進活動への取り組みです。農年協は市内の農業者年金加入者280人あまりと農業委員会、JAふらので構成され、事務局を農業委員会に置いて加入推進と啓発普及、研修・相談を実施しています。農年協では市全域を5地区に分け、加入推進活動は地区代表を先頭に行ってています。

24年度は農年協が独自に加入推進資材を50セット用意しました。キッチン用品（食器洗剤・フリーザーバッグ・台所用漂白剤・ボックスティッシュ）とパンフレットをエコバッグに詰めたものです。新規加入の重点対象を女性にして、戸別訪問を行いました。各地区代表の方にお話しを伺いました。

### 通常加入を中心に加入を勧める

中央地区の宮川隆さんは「地区担当6人が各自戸別訪問し、自分の経験から老後生活と税金対策の面で通常加入を勧めましたが、保険料負担の観点から若手や女性には政策支援も説明しました」と話します。

西部地区の今村丈哲さんは「地区担当の3人が1人ずつで戸別訪問。30～40代を対象にしました。やはり通常加入を選ぶ方が多いと思います。過

去には40歳を過ぎた方で保険料の上限額で加入された方もいます」と話してくれました。

東部地区の清水直樹さんは「3人で戸別訪問しました。東部地区は加入者が多いため、50代の未加入者も多い。これは新制度に移行した時に経営主の父親が特例脱退一時金を受給したこと、後継者が新制度に入り損ねたことが原因。これから入っても年金額は少ないため、新規の加入は難しいですね」と話します。

東山地区の河井伸幸さんは「3地域を1人ずつで回りました。政策支援対象の年代が少ないので実情。30代後半の夫婦には税制対策のメリットなどで勧めました。また、旧制度の特例脱退一時金を受給した人が税金対策を含めて通常加入した例もあります」と語ります。

皆さんのお話しを伺うと、保険料の柔軟性や税金対策、受給額などで通常加入を勧めるケースが多いようです。保険料負担の軽減で若手などは政策支援、経営の主体となると通常加入という選択肢が重要な鍵のようです。

## 女性農業委員就任がきっかけで新規加入

農年協で女性加入者代表となっているお二人にもお話しを伺いました。ともに中央地区の岡野亜紀さんと上田桃子さんです。

岡野さんはタマネギ中心で19ヘクタールを夫の恭輔さんと夫の両親の4人で経営しています。24年の農業委員就任をきっかけに、その年の7月に通常加入しました。「それまではよく知らなかったのですが、税の控除もあり、貯金よりメリットがあります」と語ります。

上田さんは夫の聰さんと08年に新規就農し、今年で17年目になります。



農年協女性加入者代表の  
岡野亜紀さん

メロンと小玉スイカを2ヘクタールで栽培しています。「就農後の土地代や自宅のリフォーム費用などの返済が済んで、私が農業委員に就任することをきっかけに24年1月に夫婦同時で新規加入しました。それまで自分が加入対象であることなど詳しい内容を知らなかった」と話します。節税や老後準備のため、通常加入で上限の保険料を月払いで支払っているそうです。

### 農業委員会・JA・農年協一体の業務推進

農年協の杉村鉄也会長（農業委員会会长）は「農業者年金は農業委員会の重要な業務の一つ。農年協の活動は農業委員会と一緒にもので、加入推進が大きな成果を上げたのは農業委員が積極的に活動した結果です」と断言されます。また、小師和彦副会長（JAふらの理事）は「老後の資金として農業者年金は重要。加入を広げるために政策支援額を保険料の額にかかわらず助成するようにしてほしいですね」と話します。

富良野市では農年協と連携して、農業委員会とJAが一体的に加入推進や農業者年金業務を進めることで成果を生み出しています。



農年協関係者（左から会長の杉村鉄也さん、副会長の小師和彦さん、山部地区代表の宮元康彰さん、女性加入者代表の上田桃子さん）